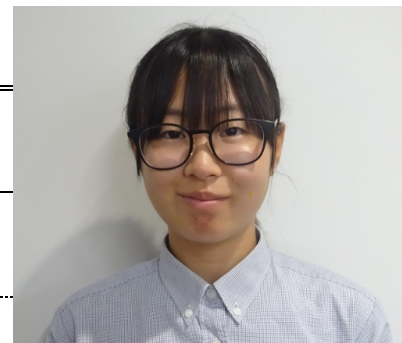


## 題名 被爆者の願いと継承

鹿沼市立北押原中学校 (氏名) 小林 麗心



現地に足を踏み入れたとき、なんの変哲もない街のように見えました。

しかし、81年前のあの日、広島の人々の命が原爆によって奪われたのかと思うと信じがたい気持ちになりました。私は原爆に関する資料を見る度に言葉を失いました。そこには、被爆した人々や街の様子がありません。特に印象に残ったのは、白骨化した頭部が山のように置いてある写真です。その中に、歯をくいしばっているように見えるものがありました。そこには、痛い、苦しい、死にたくない、生きたかったなどという被爆者の感情が込められているのだと思いました。もう二度と被爆者を出さず、平和な日々を過ごせるようにしなければならぬと強く思いました。そのために私は、「生きたかった人」「生き続けた人」の願いを記憶に、言葉に、絵にして繋いでいきたいです。何もないただの日常が当たり前ではないこと、明日という未来や希望が幸せであること、沢山の人に支えられて生きていること、その一つひとつを大切にして、被爆者が願う原爆のない平和な世界を創っていきたいです。